

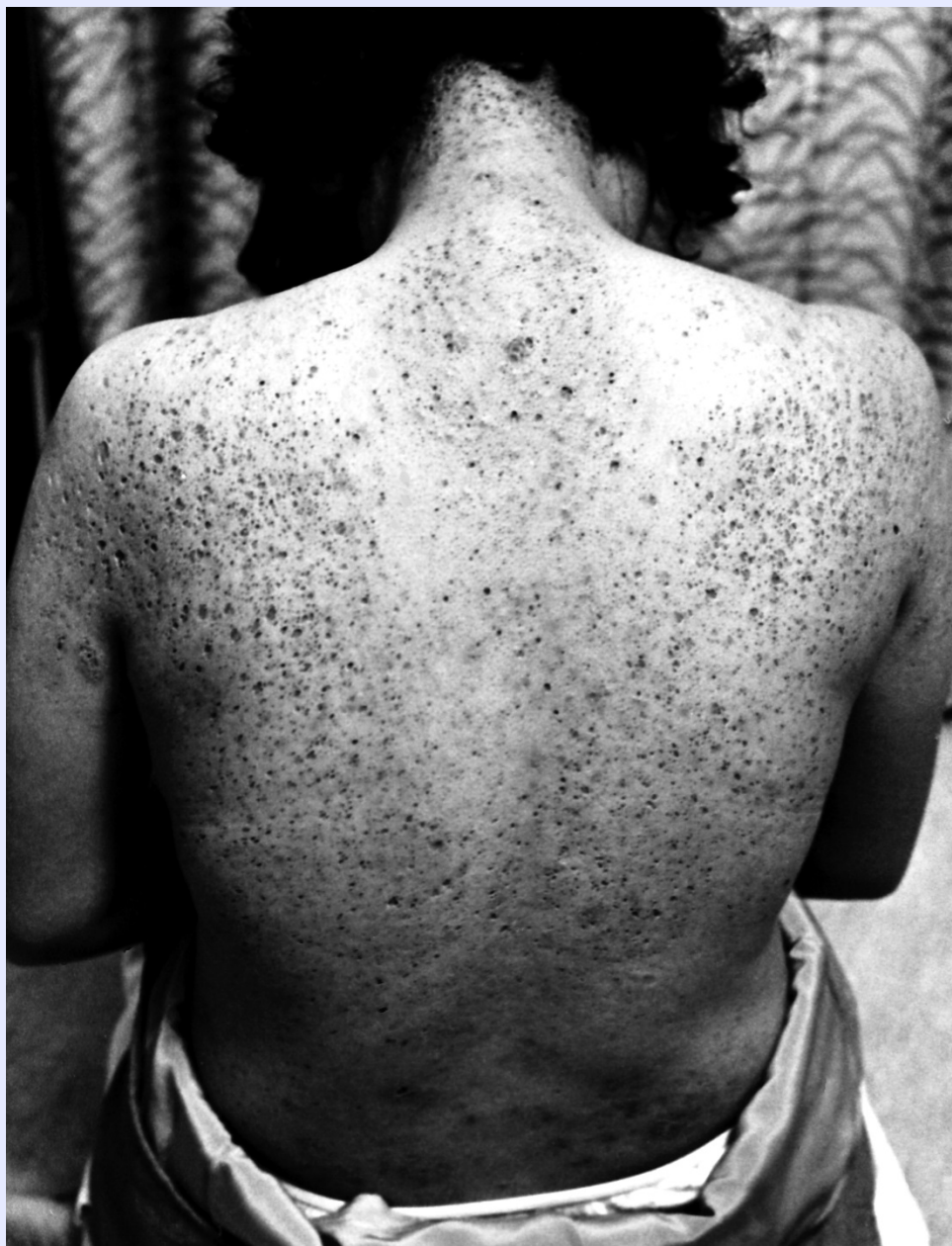
カネミ油症事件発生50年事業 市民講座(第3回)

被害者の立場としてカネミ油症を語る

カネミ油症被害者五島市の会

橋本 たき子

平成30年7月21日(土)









誠にちわ！

至々浦の橋本でございます。 No.1

油症50周年記念行事のいかにとほまに
油症の経験も末末につなぐ集りに参加出来ず事
心より感謝いたしております。

たいたお話も出来せんに、この様に多くの皆様にお集
り下さりましてありがとうございます。

失礼かと存じますが、足が悪いため座ってお話させていた
たきます。

人様の前でお話お事に慣れたは、増して知識が豊富
あらはる旭梶山会長さんの後に末熟で無力の私等と
厭首した事に自信がな怖く怖く会場を逃げ出し
た程です。今更に来るのに大きな勇気がいりました。

一度引き受けた以上今更に来るに有せんと無責任な
事言えません。当時至々浦診療所に勤めておりましたので
私なりに見たま、聞きたまの患者さんの苦しみ又私の
経験した事を頑張ってお伝えします。聞きすらい莫
ご理解の上 どうぞ最後までお付き合い下さる様
お願いいたします。

昭和43年2月頃より西日本帯に発売されたカネ油と
出会があり、ダイオキシン類の有害物質とは、フ知らず
家族と之家族を油症患者にしては、子供の健康

「管理も出来ず」母親として失格です。家族に對し
 何と申訳のない事としてしまったのかと、今に「初大罪
 罪悪感」に苦しんでおります。

私達の人生はこの油と出会い、大きく変わる時でした。

当時私は31才、それより50年、現在81才も、そう認識
 症の仲間入り、皆様のにお伝えしたい事は沢山あり
 すが、50年の苦しみと、短時間でまとめることは大変です。

そこで少しでも多くの事、患者の苦しみと皆様に理解して
 いただくため主な所のみ、5項目位に分け、当時の写真と
 基に川貝進で説明させていただきます。

1. 野戦病院ごとき1年間、

2. 全身出来た湿疹と消えた夢、

資料 [2] [3]

3. 頭髪の脱手

資料 [4]

4. 黒い赤ちゃんの誕生

資料 [5]

5. 最後にとり着いた所
 多種の癌

野戦病院にとき1年頃

43年頃より患者さんの症状が目立ち始め、一月中二
嘔吐、腹痛、下痢、倦怠感と始まり、特に小中学
生、普通の元気さがなく、脱力感、集中力、減退で
授業にならないと心配され、教人の生徒さんに先生が
卒の上来院に来された。

原因不明のため、何等治療法もなし、洗眼、投薬、延々
莫痛と大混乱、7月8月に入ると、ニキビ状の膿化湿疹、
脂肪腫と大人の方も子供も増し、あまりにも苦さのため
下のヤホ^ト送者め、この様な病気も^た治せないならヤメてほえと
大声で罵声あひせ怖く震えあかりました。

当時の先生方は、①台湾出身の-----王国のう先生、

②長丈(中外科)-----吉野先生、

③長丈(中外科)-----馬嶋先生、

医師-----3名

看護婦-----6名
夜昼問わず頑張りました。

何しろ9ヶ月も原因不明の奇病でも先生方も随分悩み、
苦おられたらうと気の毒に思いました。

臭痛治療の患者が多く、ベッドもたす、廊下待合の室と
あいた所に置を入れ、スタンの裏側に壁に釘を打て
たり、臭痛治療、野戦病院同様で慌たしてついで

9月も過ぎて、10月10日に福江保健所より、「この病気の原因
北九州のカネミ会社の製造した、米ぬか油の原因」た
分がりました。

油を作る脱臭の工程で、10%ほど小さな穴が開いていたため、
カネミで作られているダイオキシン類が油に混入し、それを知らず
私達は口にしていたのです。正に食品公害です。

決して、お店の方も、カネミ会社も、カネミも故意にしたとは思
いません、一寸たり注意だったと思ひ、誰おも恨み様
がない運の悪さに、今では苦しんでおります。

考へ見ると、自分も油症患者の一人で、患者さん接する
のは大変苦痛でした。しかも、^当面では失礼になるので、作り
笑顔で治療に当りました。幸ひにつらい思いをほした。

昭和48年5月に私もとらタラニはして、長大入院、癌の新
輸血もあがり、B型肝炎とさんさんな目に合いました。

2. 全身に出来た、湿疹を消した夢

黒い汁状の膿化疹が重なった様に見える全身に広がる
重度の人か多し、特に青年期は油物を好むがそのため、夜肌の柔らかい
顔面首背中脇の下股内等湿っぽい所に湿疹が出来、臀部
には脂肪腫を化膿し破れしと鼻をフ様臭いが出た。

又男性は背中の広く皮下に膿がたまり、その傷は深くガーゼが50cm
入る(膿を外に誘うためワッパルガーゼ)ので長ヒゲ外も、ズボンも短か
届かず、ガーゼ交換に1人の患者さんに1時間位かかる困難は処置で
した。

この^あ上げる写真の様は重度の状態の若^{若い人か}若者が男女共少なかった
はいた。

この人達は婚期を失い油症のため犠牲になったのです。

その中の1人例匿名で家族の許可をいただき紹介します。

優しい人の良い好青年でしたが、症状がひどく、重度の状態で私は
その方の小中学生の頃より良く知る顔見知りの人でした。

ある時、自分は婚を考へる人が、いるけど、この様な身体では出来そうかと
と料^{とめ}しおに、ホツト小声で云った。私は強く胸を刺した様いで
「いやそんな事はな、時間をかけて、気長に治療すれば、きっと直る
だから頑張ろうね」と慰めたのですが、その後間もなく、自から
命と結^つった。夢をばし、おほと、フウかったか、思いつめ、死を
選んだらうと、気が毒でなりました。

今頃天国に何をしているかな！身体は薬になたたらかと思出し持
本人は楽になったで「ばうか」後に残された、この両親様は若^若氣に
心まで育て上げてくれたで「ばうか」その胸中を思った時哀しと
下さう
ははうす。

不之例として

No6-1

の方も非常に柄の良し、多くの皆に親われ、お友達が多い、一家の大黒柱で、3人の子供さん、お父さんでした。

被害者の中でも最もひどい、全身疾患、重度の一番早い認定患者
だったと思えます。

現在、私も医療関係より離れ、その方の近況をよく知りませんでしたので、当人のお母さんへ尋ね、お聞きはした事をお伝えします。

この10年前位前より、病状が悪化して、長大へ、治療通院中
でしたが、医学的治療法も見えず、最後の手段の
ステロイド(副腎質ホルモン)治療より、最初5年程は気分も良かった
のですが、そのステロイド薬も長く使用すると副作用がひどく、思う
様に服用出来ず、服用した時だけ楽になり、薬を止めると全身の
かゆみ、頭部、顔と全身から汁が出て、又腰痛がひどくなり、仕事
手につかない様になり、再度腰の手術としてもう一度入院希望で
病院を尋ねたのですが、難病の中病で手術は難しいと
断られ、自分の病気が治る見込みがないと、悲かんで、
絶望と苦しい末、帰省後翌の暑中、家族を置き、一人淋しく
旅立たれたと聞きます。本当に残念です。

後に残り家族は急な別れに悲し、何も分からずお父さんの極^{ひき}
倒^あ寄り添っている子供さん、狂わんばかりに泣きくすねるお母さんに
何と声のかげ様もありました。

その後

再度お参りに行きました。

食料も喉も通ず。又似た様子でお母さんは遺影の前にお祈りをしていた。

彼は天国行き樂になつたか遺影の中列にて決かな笑顔で私を迎えてくれた。

お母さんいかに、私の主人も油症患者で早く死別した。今度は後とり息子まで命を取られた。自分がカサの油を喰べさせなければ、こんな不幸は思はせんで良かったのに！ 自分がこの子と変わらぬものなら変わらなかつた！ 私が、主人もこの子も殺してはつた。自分を責め、哀しむに涙を流した。その夢に私も夢が泣き泣きと帰途についた。心寂しかった！

何と痛ましい出来事でしょう！二度とこの様な不幸をくり返さぬ様に祈りかけ。

この苦しみをお忘れず 油症問題は

決して忘れさせては行かない！

この経験を未来に伝える様に

私達は頑張り努力すべきだと思つた。

長いことこそ「聴いた」きまにありがとうとさし

ました。

3. 頭髪の脱毛

髪は女の命であるといふ。この写真で分かり易く脱毛は女性に多く目立ちました。私の知っていた方は当日40ギガの注射でしか頭部の髪が全部抜け、ツルツル坊主で、口も深爪でタオルを被ぶり外出する事は全くなく、家の中にも出ておらず、主婦として大変な状況に「気の毒に思いました」小学生にも部分的にハゲてる子があちこち見受けられ、

実は家の子供も洗髪お度に沢山髪が抜け部分的にハゲて来て、ひらりほしか、学校を休ませる訳にも行かず、帽子を被らせて登行させた所、男の子から「ハゲハゲ一銭ハゲ」と云って、かうかゆいから、学校には行きたくない」と登行拒否、これにはどうしたら良いものかと悩まされた。

夫人の方の近況が知りたかったので、県外の子供達の所に行き、其の後の事は全々わかりません。

うち家の子供はきれいには之を治しました。脱毛の治療は頭皮に直接注射するので、それはそれは痛いそうです。

毛根には「グメーン」を与えたため、グイオキシニ類の恐ろしいに再び痛感しました。

次に

黒い赤ちゃんの誕生です。

当時診療所の先100m位離れた所に「母子センター」がありました。周辺の町民はそこで出産をしてました。

赤ちゃんが生まれる度に王光生が往診に行っていました。

そこで生れて来た赤ちゃんを見て、「ワッ」と声が出るのを我慢しました。

大きなショックでした。何と生まれ変わったばかりの赤ちゃんを見た時の写真の様に

ま黒でびっくりしました。その時はカネミの油が原因であるとは知りませんでした。

赤ちゃんは普通赤い丸々としていて一声の産声は「オキーン」と元気に泣きおかし。でも油症患者さんの赤ちゃんは産声も弱々しく肌は黒く弾力も生かなくとうなるものかと心配しました。

又生れて来る時は、どの赤ちゃんでもバターのような油が身体について生れて来る。

その油たるは黒い赤ちゃんの場合、バターにコルクールでもお世話の様な黒々したバター様の油を身にまといまき水凍ました。

其の後黒い赤ちゃんはどうなったんだろうと心配していました。

お盆とかお正月に帰省する皆さんに再会し、あ良かった

少し色黒かと思われは青年、色白變身は美男子・美女と

なり、良きお父さん、お母さん、ある人は子供さんの手と引く姿に感動し安堵もしました。

油症患者さんが最後にたどり着いた所
全部患者さんとは限りませんが、油症患者は癌疾患の多
い特徴の様です。

入院している患者さんも
癌疾患の人がほとんど
でした。

- ① 胃癌
- ② 肝臓癌
- ③ 大腸
- ④ 肺癌
- ⑤ 子宮癌

ダイオキシン類は一度体内に入ると、なかなか排出されない
様で、普通ダイオキシン類の値は、正常人で15%~45%位
だが、私の当時の血中濃度は52%位で、全満
5年の脂に入る程高く、正常の人の約15~6倍位でした。
現在は36%位まで下がりました。

ダイオキシン類とは死ぬまで仲良くして行こうと思つて、
お様に排出されにくいので、癌につながるのかなと考へて、
入院患者さんで癌の末期の方は痛みと具合、悪さに向抗
き、大声を上げた、油気等当道時、呼ばれる
音、50年たつた今でも夢の中で、その音にびっくりして、眼が
覚め、二度と、お様に、ひどい食品公害はあてはなれない、
化学が進むと、又比例に病気が進みます。

中国からはPM2.5、北朝鮮の核力問題と周囲には、次の
おすかいの問題をかかせる日本、国の政治力で早く
解決出来る様にと祈っております。